

キャラクター名 プレイヤー名

シンドローム	ノイマン ウロボロス		ワークス	高校生	カヴァー	
	オプショナル		年齢		性別	
覚醒	犠牲	衝動	憎悪		初期侵食率	34 %
出自		経験			邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	1	1	0			2	行動値	7
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	7
精神	5	0	0			5	戦闘移動	12
社会	1	0	0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			R C	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

[illegible]

合計装甲：	0	合計回避：	0
-------	---	-------	---

[illegible]

最大財産P:	2	残り財産P:
--------	---	--------

[illegible]

「私？そうだよ。『ヒトゴロシ』、だよ。」

鈴木優衣は、ごく一般的な家庭で育った女子高生だった。
一人っ子で、両親は共働き。二人とも帰宅が遅かったため、家事のほとんどは自然と優衣の仕事になっていた。
成績は平均程度。ただし宿題を忘れたことはほとんどない。部活動は中学から続けているバスケットボール部。特別上手いわけではないが、足を引っ張るほど下手でもない。
対人関係も良好だった。誰にでも友好的に接するが、特別親しい友人がいるわけでもない。
教師から見れば「何の問題もない生徒」。
同級生から見ても「感じのいい子」。
本人も、自分を特別な人間だとは思っていなかった。

高校も、「家から近いから」という理由だけで選んだ。
ところが、入学してみても分かった学校の内情は、入学前の説明とはまるで違っていた。
いじめや体罰は日常茶飯事。生徒同士の暴力だけでなく、教師による暴力も珍しくなかった。暴行を受けて骨折する生徒もいれば、タバコの火を押しつけられて火傷を負う生徒もいた。

優衣は、そうした環境の中でも標的にならないように立ち回った。
誰かと深く関わらない。目立たない。
相手が何を望んでいるのかを察する。
自分に矛先が向けば、相手の要求を受け入れてでも逸らす。
何度か大人に連れ出されたこともあった。
それでも、痕が残るほどの暴力を受けるよりはましだった。